

所 在 地 敦賀市常宮13-11 電話番号 0770-26-1040 【朝鮮鐘拝観】 拝 観 料 300円 拝観時間 9:00~16:00 ※神職の不在時等は拝観できません。事前にお問い合わせください。

天満神社本殿・石の間・拝殿【県

現在の社殿は、元の社殿が敦賀空襲で全焼したため、滋 賀県彦根市にあった佐和山神社の社殿を昭和35年(1960) に敦賀に移築したものです。 社殿は本殿と拝殿を石之間で結ぶ権現造となっており、

豪華な造りとなってし ます。 ※境内見学のみ



高徳寺本殿【県】 明応9年(1500)、祐怡の開基と伝えられる真宗大谷派の 寺院です。元和元年(1615)上棟と伝わる本堂は、内陣が幅 3間奥行き1間で三つ並びの押板形式の仏壇を配し両脇は

余間となっています。 このような堂内配置を はじめ、虹梁や組物 蟇股などの装飾はさ い形式の真宗寺院本 堂の形態を非常による 伝えています。 ※境内見学のみ

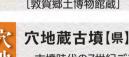
中郷古墳群【国史跡】

敦賀平野の南東部の山麓に位置する複数の古墳群で、こ のうち向出山古墳群(3基)と明神山古墳群(5基)が指定され ています。築造時期は古墳時代前期~後期(4~6世紀)で 様々な形式の古墳が築かれています。敦賀最大規模をほこる

向出山古墳出土品(市)

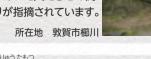
中郷古墳群のうち向出山1号墳からは、鉄剣や鉄刀、鉄鏃 などの鉄製武器、銅鏡、須恵器など多くの副葬品が出土して います。特に鉄地金銅装眉庇付冑(金メッキを施したかぶと)

と鉄地金銅装頸甲(金 メッキを施した首まわり のよろい)がそろって出 土しており、これは全国 的にもあまり例がない 貴重なものです。 [敦賀郷土博物館蔵]



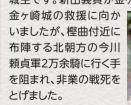
古墳時代の7世紀ごろ造築された、直径11m高さ3.5mの 円墳で玄室の奥に石棚を備えています。石棚には地蔵尊が祀

石棚を持つ古墳は当 時周辺で製塩にたずさ わっていた人たちとの関 わりが指摘されています。



瓜生保戦死の地【市】

金ヶ崎城の救援に向か いましたが、樫曲付近に



所在地 敦賀市樫曲

定広院墓地の石仏(市) 笏谷石で造られた三十三躯の石仏群で、千手観世音菩薩、 地蔵菩薩、如意輪観世音菩薩、馬頭観世音菩薩、不動明王 等が彫られています。類似の石仏が一乗谷朝倉氏遺跡に多 く見られ、朝倉氏や疋田一帯を治めた疋壇氏の隆盛期にあ

柴田氏は、野坂の有力農民で、寛文2年(1662) 市野々に屋敷を構えました。柴田氏は小浜藩から 市野々周辺の新田開発を請け負って、敦賀の豪 農となり、苗字帯刀が許されていました。屋敷は小 浜藩主が参勤交代する際の休憩所でもありました。



※江戸時代前期ごろの屋敷『市野々新田絵図(屋敷部分拡大)』

柴田氏庭園(国名勝)

敦賀地域最高峰の野坂山を借景とし、その眺めを遮らない ように植栽されています。正面の築山の下には滝口があっ て水を落とし、池には蓬莱島(中島)があり橋をかけ、回遊で きるようになっています。



柴田氏屋敷【市】

柴田氏の屋敷は周囲に環濠が廻らされていますが、近世 の有力農民の屋敷に中世の武家屋敷にみられる環濠を備え ている点は全国的にもあまり類

をみないものです。小浜藩の新 田開発を行うにあたり、相応の 格式を持たせるためと考えられ

■ヤマモモ・クスノキ【市】

ました。戦時中に戦争

用資材として一部が

伐木され面積が縮小

約1.5kmにわたっ

て続く白砂青松の景

色は、敦賀を象徴する

ものとなっています。

駐輦の碑【市】

明治11年(1878)10月10日、明

に立ち寄り白砂青松の佳景を眺めら

れました。のちにこの地を訪れた勝海

明治11年(18/8)10月10日、明治11年(18/8)10日、明明年(18/8)10日、明明年(18/8)10日、明治11年(18/8)10日、明明年(18/8)19年(18/8)10日、明明(18/8)10日、明明(18/8)10日、明明(18/8)10日、明明(18/8)10日、明明(18/8)10日、

しました。

ヤマモモは雌雄異種の常緑高木で敦賀半島を中心に若狭 湾沿岸に広く分布しています。この庭園には、「甘棠園」の名 称にちなんで植えられています。 クスノキは関東以南、四国、九州に分布する暖地性常緑高

木で、各地の神社には樹齢千年を超えるものも多くあります。 所 在 地 敦賀市市野々町1丁目723

休館日 水曜日(祝日の場合翌日)、年末年始(12/29~1/3) 入館料 一般200円 中学生以下100円(団体50円引き·20名以上)

敦賀湾の最奥にあり、碧海に沿ってアカマツ・クロマツが

延び広がる景勝地です。古くは氣比神宮の神苑でしたが、江

戸時代には小浜藩有林となり、版籍奉還後は国有林となり

元治元年(1864)、水戸の武田耕雲斎らは、一 橋慶喜に尊王攘夷の志を伝えるため京都を目指 して西上しましたが、追討軍に行く手を阻まれ、敦 賀の地で投降しました。

■武田耕雲斎等墓(国 史跡)

慶応元年(1865)松原来迎寺野において、武田耕雲斎ら 353名が処刑されました。刑場となった地にその後塚が築 かれ、現在に至るまで地元の方々によって大切に守られて

合わせて411柱が祀られています。



問屋を経営していた塚谷家の屋敷の一部で書院造の建 物です。小規模ながら、門・式台・下段の間・上段の間を備え た格式ある造り

なっています。

| 旧鯡蔵【日本遺産】【市】

加賀藩に降伏した武田耕雲斎らは、当初加賀藩に厚遇さ れ市内の3カ寺に収容されていましたが、幕府側に身柄が引 き渡されると、16棟の荷蔵に監禁されました。鯡蔵での幽閉 生活は、劣悪な環境であったため、病死者も続出しました。

棟が松原神社境内 に移築され、令和5 年に再移築されまし



正平23年(1368)良如上人の開基になる浄土宗寺 院です。建造物のほか、多くの美術工芸品や歴史資 料が文化財に指定されている福井県内でも有数の文 化財の宝庫です。

■阿弥陀堂(国 重要文化財)

正面5間(9.82m)側面5間(10.75m)で、上段の屋根の下に 裳階と呼ばれる下段の屋根を設けることで、本来1層の建物の外 観を荘厳に見せています。

この建物は、文禄2年(1593)に朝倉氏の城下町であった一乗 谷から移築されたものと伝えられています。



文化8年(1811)落成で擬宝珠高欄付きの縁を巡らす正面7間 (21.3m)側面6間(18.7m)の大規模な建物です。堂内には、内 陣の一枚板の天井や胴回り約140cmの丸柱などが使われ堂々 とした風格のある姿をしています。 御影堂の側周りの建具は障子戸になっており、板戸などが付

けられていた痕跡もなく、建具は未完成だったと考えられます。 現在は修理工事中につき拝観できません。

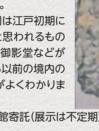


SECTION AT A

■西福寺古図(市)

西福寺は、元亀・天正 期以前には塔頭24院を 構え、壮大な寺域を有し ていました。

この古図は江戸初期に 描かれたと思われるもの で、現在の御影堂などが 建築される以前の境内の 伽藍配置がよくわかりま



[市立博物館寄託(展示は不定期)]

書院庭園【国名勝】

江戸中期の作庭とされ、極楽浄土を表現しているといわれてい ます。谷あいの自然地形を巧みに利用して上下の壇で構成されて います。上段には石組みを施し周囲に植栽を配し、下段は水の流 れが滝となって注ぐ園池を中心としています。園池には四修廊下 が張り出し、御影堂・阿弥陀堂・書院が庭園を取り囲む形で配さ れ、建物と庭園が一体となった豊かな景観をつくりだしています。



■書院及び庫裡【国 重要文化財】

寺伝では福井藩主であった結城秀康が発願し、松平忠直が完 成させたといわれていますが、平成の大修理の際、天和3年 (1683)に完成し

います。 全体に数奇屋風 の要素を取り入れ ながら天井を高く し、格式を重視し た建物となってし ます。

たことが判明して

■西福寺境内建物(市)

西福寺の伽藍は重要文化財以外もよく整っており、玄関、総 門、庫裏門、鐘楼、念仏堂が市指定文化財となっています。

このうち総門は 寛永年間(1624 ~1644)の建立と 伝えられ、改築さ れた阿弥陀堂を除 くと西福寺最古の 建築物です。



拝観時間 9:00~17:00(最終受付 16:30) 拝 観 料 大人500円(団体400円·30名以上)、中学生以下無料

元禄2年(1689) 俳聖松尾芭蕉は江戸深川を 出立し、後に『おくのほそ道』の題材となる東北・ 北陸への旅に出ました。そして旧暦の8月、中秋 の名月にあわせて敦賀を訪れます。氣比神宮に 参詣し、また舟を仕立てて色ヶ浜を訪れ、地元の 俳人と交流して多くの句を詠んでいます。

■おくのほそ道の風景地 けいの明神(氣比神宮境内) 【国 名勝】

整備した遊行上人の故事に ちなんで「月清し遊行のもて る砂の上」と詠んでいます。 氣比神宮境内には、大鳥居な | ど芭蕉が訪れた当時の景観 が今に残っています。

■奥の細道(素龍清書本)附細道伝来記 【国 重要文化財】

元禄7年(1694)に能書家 の柏木素龍が清書した『おく のほそ道』の完成形です。表 紙の題簽は芭蕉直筆です。 芭蕉の死後この素龍本は、弟 子やその縁者に伝わり、最終 的には敦賀の西村家に伝わ りました。 [個人蔵]

●竹杖【市】

敦賀を訪れた芭蕉は、唐仁橋(現相生町)にあった出雲屋 に滞在しました。出立に際し芭蕉は出雲屋に自身の杖と笠 を残していったといわれます。のちに笠は失われてしまいま すが、杖が蕉翁宿のシンボルとして今に伝わっています。 [市立博物館蔵(展示は不定期)]

■鐘塚(市)

延元2年(1337)金ヶ崎の 戦いで敗れた南朝軍は、陣鐘 を海に沈めたと伝えられ、芭 蕉はこれを聞き「月いづく鐘 は沈る海のそこ」と詠みまし た。この句が『おくのほそ道』 に採られていないことを惜し んだ敦賀の俳人たちは宝暦 11年(1761)、金前寺に句碑 を建立しました。



宮は、越前国一之宮として知られ古代には日本海 沿岸各地に社領を有し勢力を誇りました。戦国時 代末期、朝倉氏と命運を共にしたため兵火に遭 いましたが、江戸時代に再建されました。昭和20 年(1945)の空襲では、旧国宝の社殿ほか主要な 建築を焼失したものの、幸いにも大鳥居は焼失を 免れ重要文化財に指定されています。

大宝2年(702)の社殿建立と伝えられる氣比神



大鳥居【国 重要文化財】

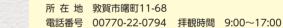
大鳥居は、古くは東の参道にあり14世紀に暴風雨で倒壊 したと伝えられ、中世の絵図にも描かれています。現在の大 鳥居は正保2年(1645)に小浜藩主酒井忠勝の寄進により 現在の地に建立されたものです。

この大鳥居は、全体に朱漆が塗られ、高さが10.93m、主 柱間7.45mあり由緒ある神宮にふさわしい堂々たるもので



【市】

ユーカリはオーストラリ ア原産の植物でグローブ ルスという種類が、明治初 頭に日本に渡来しました このユーカリは昭和初期に 奉納されたものです。



現在博物館通りと呼ばれている通りは、かつて は商店が立ち並び、旧大内通り(現:元町)・児屋 川まで続く敦賀のメインストリートでした。 大和田銀行は明治25年(1892)に創業し、福井

県内においては、福井銀行と並ぶ有力銀行となり ましたが、終戦直後の昭和20年(1945)10月に国 の政策により三和銀行と合併しました。



■旧大和田銀行本店本館【国 重要文化財】 昭和2年(1927)に竣工した本店建物で地上3階地下1 階、鉄骨レンガ造(一部鉄筋コンクリート造)となっています。 イオニア式・コリント式の柱頭で飾られた円柱、照明器具を 取り巻く天井の漆喰、独創的な入り口部分のひさしなど、華 やかな装飾が施されています。この建物は、1階の大理石力

ウンターがあるロビーや事務室、2階の貴賓 室などの銀行機能のほか、3階に公会堂、 地階にはレストランといった公共的機能 も兼ね備えていました。



北陸最初のエレベーター【機械遺産】

は、機械部分を含めほ ぼ全体が保存されて おり、国産エレベー ター黎明期の記念碑 的遺物として、日本機 械学会の"機械遺産"



旧大和田銀行本店本館には、竣工当初からエレベーター

が設置されていました。当時エレベーターが設置された建 物は珍しく、北陸で最初の乗用エレベーターといわれていま





所 在 地 敦賀市相生町7-8 電話番号 0770-25-7033 開館時間 9:00~17:00

休館 日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日)、 祝日の翌日、年末年始(12/29~1/3) 入館料 300円(団体250円・20名以上)、高校生以下無料

みなとつるが山車会館



設展示しています。 別館は、旧大和田銀行の本店社 屋(登録文化財)で、敦賀城主大谷吉 継や北前船の関連資料など、敦賀 湊の繁栄の歴史を紹介しています。

八幡神社境内にあ

る博物館。郷土史家

でもあった宮司の故

石井左近氏が長年か

けて収集した刀剣や

氣比神宮例大祭で巡行する山車

を実物展示する資料館。迫力ある大

画面のシアターで山車巡行の臨場

冑·能面·水引幕などの懸装品も常

(最終入館16:30)

電話番号 0770-21-5570 開館時間 9:00~17:00(最終入館16:30) 休館 日 毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日)、

祝日の翌日、年末年始(12/29~1/3) 入館料 300円(団体250円・20名以上)、高校生以下無料

敦賀郷土博物館

所 在 地 敦賀市相生町7-6



所 在 地 敦賀市三島町1丁目3-3(八幡神社境内) 電話番号 0770-22-1193

見学方法 事前に電話にてお問い合わせ下さい。 (12月~2月冬期休館)

敦賀市文化振興課

〒914-8501 福井県敦賀市中央町2丁目1番1号 **☎**0770-22-8152 E-mail k-bunka@ton21.ne.jp

られており、近世初頭までは石室の前に堂舎が建ち地蔵信仰 の場となっていました。

瓜生保は南北朝時代の武将で南越前町にあった杣山の 城主です。新田義貞が金ヶ崎城に籠った際に南朝方として

たる15世紀中期の年紀が

化との関連が考えられま

近くの松原神社には、処刑された者と病死者や戦死者を

所在地 敦賀市松島町2丁目

木ノ芽峠を越えて 新保に宿営した耕雲 斎らは、一橋慶喜の 路を包囲され、ここ で加賀藩の使者と会 談し、最終的に降位 しました。

所在地 敦賀市新保27-30

昭和29年(1954) に港近くにあった1

所在地 敦賀市



つきだした位置にある山 城で、三方を海に囲まれた 天然の要害です。

時代の元亀元年(1570)越前の朝倉氏攻めで金ヶ崎城を攻 略した織田信長が近江の浅井長政の裏切りにより退却した 信長退却戦の舞台となりました。

舟は、往時を回想して漢詩を詠んで います。この碑にはその時の漢詩「曾 経駐輦處 黎首憶甘裳 松籟如奏

曲 海濤和洋々」が刻まれています。 所在地 敦賀市松島町

木製加飾腰高障子【県】 腰高障子とは腰板の高さが約60cmぐらいある明障子 で、腰板の部分に絵画などの装飾が施されたものもありま

す。来迎寺の腰高障 子は絵画だけではな く竹細工などを巧み に施した豪華なもの で、敦賀城が破却さ れた際に移したもの と伝えられています。

観音像図【市】 観音を中心に左右に侍女を従 え、背後に岩石松樹や滝を配した 構図となっています。中国の元・ 明時代の南画の影響を受けたと 見られ、のびやかな明朗さがただ よいます。

所在地 敦賀市松島町2丁目5-32

※法要時、住職不在時等は、堂内の見学はできません。

永賞寺 九重塔(市) 笏谷石で造られた高さ3.1メートルの層塔で、大谷吉継の

所在地 敦賀市栄新町11-2

供養塔だという伝承があります。風化により各重の笠や塔 身は損耗が進んでいます が原型は保っており、近 世初期の笏谷石製石造 物として希少なもので

・尊良両親王を奉じての足利軍と対峙しました。また、戦国

■玄蕃尾城跡(国史跡)

所在地 敦賀市刀根・長浜市

所在地 敦賀市疋田

敦賀城跡

越前と近江の境にある 柳ヶ瀬山(中尾山:標高 420m)にある山城で、北 國街道と刀根越間道の分 岐する要衝に位置します。 北ノ庄城主であった柴田

勝家が賤ヶ岳合戦時の本

陣として築城したと考えら

市街地の北東部、天筒

南北朝時代の延元元年

(1336)に新田義貞が後

醍醐天皇の皇子である恒

山から延びる尾根が海に

れています。尾根上に配された郭は空堀や土塁で区画され 巧妙につくられた虎口や馬出しなどが備わっており、最も発 達した構造を示す織豊系山城の典型です。 ■疋壇城跡【県】

> 近江と越前を結ぶ西近 江路・塩津越・刀根越の3 街道が交わる疋田集落の 後背の丘陵地に築かれた

平山城で、文明年間 1469~1487)に朝倉氏 の家臣であった疋壇対馬 守久保が築城したと言わ れています。元亀元年(1570)の織田軍の進行で落城し、織 田軍退却後に回復しますが、天正元年(1573)の織田軍に よる再度の越前侵攻で完全に陥落し破却されました。



整備は、近世敦賀湊の繁栄の礎となりました。

ました。大谷吉継によってなされた敦賀城の拡張と町立ての

1583)に蜂屋頼隆が敦 賀の領主となってから築 城が始まり、天正17年 (1589)には大谷吉継が敦 賀城主となり建設を引き 継いだといわれています。 絵図などでは三層の楼閣を持つ城郭として描かれています が、関ヶ原の戦い後の元和2年(1616)に破却されてしまい

敦賀城は、天正11年



明治新政府の富国強兵策の重要課題の1つに掲 げられた鉄道敷設は、明治2年(1869)に東海道と、敦 賀~琵琶湖間への敷設が決定しました。明治12年 (1879)に敦賀~米原間の着工が決まり、同15年 (1882)に敦賀~長浜間(柳ヶ瀬トンネル区間を除く)が 開通、同17年(1884)には柳ヶ瀬トンネルが完成して全

通しました。日本海の海運と琵琶湖水運が鉄道で直 結されたこと の荷物取扱 量は飛躍的 に増加し、近 代敦賀の発

りました。 ■旧北陸線トンネル群【国登録】 明治29年(1896)敦賀~福井間の鉄道が開業しました。敦賀 から今庄(南越前町)に至る山中峠は急こう配の難所で、ここを

越えるため13のトンネ ル、築堤、橋梁、暗渠な ど多くの土木構造物が 築かれました。このう ち現存する11のトンネ ルと暗渠1か所、ロック シェッド1か所が登録

有形文化財となってい ※写真は、建設当時逓信 大臣であった黒田清隆 の揮毫による葉原トン ネル南側坑口の石額拓本(上)と北側坑口(下)

■ 小刀根トンネル [市]

明治14年(1881)に完成した小刀根トンネルは、翌年の鉄道 開業から昭和39年 (1964)の柳ヶ瀬線廃 線まで利用されまし た。トンネル内部は岩 盤の露出部分とレンガ 積みの二段構造になっ

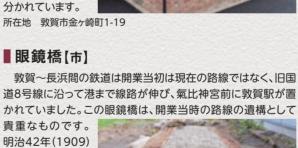
術を伝えています。



所在地 敦賀市刀根 ■柳ヶ瀬トンネル

■旧敦賀港駅ランプ小屋(市) ランプ小屋は、蒸気機関車の運行に欠かせないランプ(カンテ

ラ)等を保管した倉庫で、明治15年(1982)の鉄道開業時に終着 駅である金ヶ崎停 車場(のちに敦賀 港駅と改称)に建 てられました。イギ リス積みの煉瓦造 となっていて、内部 は物置庫と油庫に

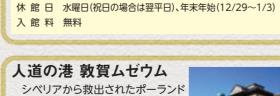


橋梁としての役目 を終えました。 所在地 敦賀市鉄輪田 ※自家用車でお越しの方は、市営白銀駐車場をご利用ください。現地周辺

に駐車はできません。 敦賀鉄道資料館

旧敦賀港駅舎を模した資料館。 明治15年(1882)の鉄道開業か ら現在へと続く敦賀と鉄道の歴史 について、貴重な史料が展示され ています。

電話番号 0770-21-0056 開館時間 9:00~17:00



所 在 地 敦賀市港町1-25

た史実を中心に、当時の敦賀市民との 交流エピソードなども紹介しています。

入場料 大人500円(団体400円・20名以上) 小学生以下300円(団体240円·20名以上) ※20名以上の団体は事前予約が必要です。詳しくはお問い合わせ下さい

敦賀港は明治32年(1899)に開港場に指定さ れ、明治35年(1902)にはロシアのウラジオストクと の間に連絡航路が開設されました。明治40年 (1907)に、横浜・神戸・関門と並んで重要港湾に 指定され国際港として発展しました。現在でも港

■旧紐育スタンダード石油会社倉庫(国登録)

油貯蔵庫として建設したイ ギリス積みの煉瓦造平屋 建の倉庫です。第二次世界 大戦中は軍の被服庫とし て利用されていました。

に敦賀駅が現在地 す。ジオラマ館では、明治後期か に移転し路線変更 ら昭和初期の敦賀の街並みが再 が行われて、鉄道 現されています。 所 在 地 敦賀市金ケ崎町4-1 電話番号 0770-47-6612 開館時間 ジオラマ館9:30~17:30(最終入館17:00) レストラン館9:30~22:00

新港第1号·第2号·第3号倉庫(国登録) 昭和8年(1933)建築の鉄筋コンクリート造平屋建の倉庫 です。倉庫内部は3分割されており、外観は段差付きのパラ

立石岬灯台 (国登録) 孤児や杉原領事代理が発給した「命の ビザ」を携えたユダヤ難民を迎え入れ

所 在 地 敦賀市金ケ崎町23-1 電話番号 0770-37-1035 開館時間 9:00~17:00(最終入館16:30) 休 館 日 水曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始

周辺には当時の面影を残す遺産が残っています。

スタンダード石油会社が石

敦賀赤レンガ倉庫 「旧紐育スタンダード石油会社倉庫」は「敦賀赤レンガ 倉庫」としてジオラマ館とレストラ ン館に整備され、活用されていま

※営業時間は各店舗により異なります 休館日 水曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/30~1/2) ジオラマ館入館料 一般400円 小学生以下200円 旧敦賀倉庫株式会社



るモダンな倉庫です。 所在地 敦賀市蓬萊町 敦賀半島の最北端、標高117m の高台に位置する立石岬灯台は、 明治14年(1881)に日本人の技 術者の手で建設された、日本海側

では2番目の西洋式灯台です。建

設当時は500カンデラ、光達距離

15海里で石油灯を利用していま

した。灯台は敦賀の近代化と繁栄

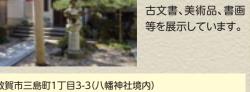
の象徴として、敦賀市章のデザイ

ンの一部にもなっています。

所在地 敦賀市立石

に認定されています。

このエレベーター



入館料 大人·大学生200円、高校生100円、 小·中学生50円(団体2割引·30名以上)